

# スマホやゲーム機の写真や動画撮影で 気を付けなくてはいけないこと

御存知のとおり、スマートフォンや携帯ゲーム機の多くはカメラ機能を有していて、子どもたちはそれを使って気軽に写真や動画撮影ができる時代です。子どもたちの間では、Twitter（ツイッター）やInstagram（インスタグラム）などの画像をインターネット上に気軽に投稿できるSNSの利用が増えており、それに伴いトラブルに発展する事案も増えています。

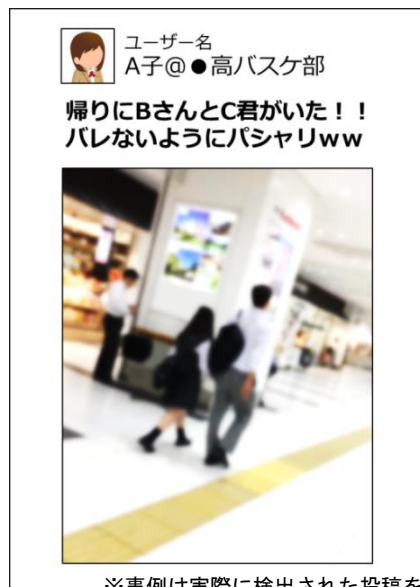
## 写真や動画でコミュニケーションを図る子どもたち

子どもたちにとって、写真や動画は「どこで/誰と/何をしているか」を簡単に記録し、すぐに仲間と共有できるコミュニケーションツールであると同時に、写真や動画をSNSに投稿することで、自分の価値観を仲間以外にも表現できるツールでもあります。正しい知識があれば、たくさんの思い出を記録し仲間と共有することができる素晴らしいツールですが、最近では、知識やモラルの理解不足から、他人にカメラを向けることに配慮ができなかったり、他人の写真を無断でインターネット上に投稿したり、飲酒や喫煙などの不良行為を悪気なく投稿したりするなど、後からトラブルになるケースも少なくはありません。

## 知っておかなければいけない情報モラル

平成29年5月1日に「北海道迷惑行為防止条例」が改正され、学校などでの盗撮行為も処罰の対象になるなど、盗撮等の卑猥な行為の規制が強化されました。また、同意を得て撮影した写真や動画であっても、インターネット上に無断で掲載することは肖像権の侵害（人権侵害）に当たるなど、法律に違反する犯罪行為であることを子どもたちは理解しておかなければなりません。

「インターネット上には投稿しないし、バレなければ大丈夫」と、写真を撮る子どもがいますが、バレなかったとしてもその行為自体がいけないことなのだという認識を、子どもたち自身に持たせなければなりません。また、友達の間でも写真を撮られることが嫌だったり、インターネット上に投稿されることが嫌だと感じる人もいるという、個人の認識の違いを理解することも大切です。



※事例は実際に検出された投稿をもとに、当資料のために作成したものです。

## 指導の要点

写真や動画によるネットトラブルを未然に防ぐためには、無断で他人を撮影することが「盗撮行為」として条例に違反することや、無断で他人の写真をインターネット上に公開することは肖像権の侵害に当たり、法律に違反する犯罪行為で、社会のルールを逸脱する行為であることを子どもたちにしっかり理解させる必要があります。また、「知らない人から勝手に写真を撮られたらどう感じるか」「友達であっても撮られた写真を勝手に広められたらどう感じるか」など、自分が被害者になった場合にどう感じるか、また、相手はどう感じるのかなどを話し合う機会をつくりましょう。写真を気軽に撮ることや、投稿することでコミュニケーションを図る現代において、自分は正しいと思っている感覚が、実は社会のモラルに反しているということがあることを理解させることが大切です。